

ようこそ、臨床環境学プログラムへ！

-新しい学理、教育、そして人材を生み出す-

Welcome to

Clinical Environmental Studies Program

by

"Education and Research Center for
Sustainable Co-Development"(SusCoDe)

-Generation of new scientific principle,
education method and human resources-

持続的共発展

検索

Apr 2026

<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

なぜ我々は学問をやっているのか？

Why do we study?

• 「真理」の探究？ Inquiring truth?

- 世の中とはどのようなものなのか？ What is the world?
- なぜ我々はここにいるのか？ Why are we here?

• 「現実」への対応？ Corresponding to reality?

- 直面する課題をどう乗り越えればよいか？ How can we overcome the challenges we face?
 - どうすれば我々は幸せになれるのか？ How can we become happy?
- 私は土木屋なのでこちらをいつも考えている As a civil engineer, I'm always thinking about this.

いずれにせよ「科学的方法」が重要 Scientific method is important

- 客観性(再現性) Objectivity, Reproducibility
- 観察・実験、分析と総合 Observation, Experiment, Analysis, Synthesis

→ ただし、突き詰めるほど細分化

「科」の「学」へ Detailed disciplines

→ 「専門バカ」？ An expert who is ignorant outside the field?

「科」の「学」だけでは環境問題に対応できない Miscellany of individual researches cannot solve environmental issues.

• 環境問題 = 自分たちの周辺の問題

The environment is a series of problems around ourselves.

▶ 「環」: まわり、「境」: さかい KAN=surroundings, KYO=boundary

▶ 様々な事象が分野横断で複雑に結びついている Various phenomena are intricately interconnected across different fields.

→ それらを描ききったもの The ultimate depiction of these things: 「曼荼羅」"Mandala"

▶ 実験室と違って都合のよい仮定は設定できない Unlike a laboratory, convenient assumptions cannot be set.

• 細分化された個別学問分野では視野が狭すぎる

Detailed discipline's perspective is quite narrow.

▶ 固有の視点から鋭利な分析を提供できる場合も Sometimes we can offer sharp analysis from a unique perspective

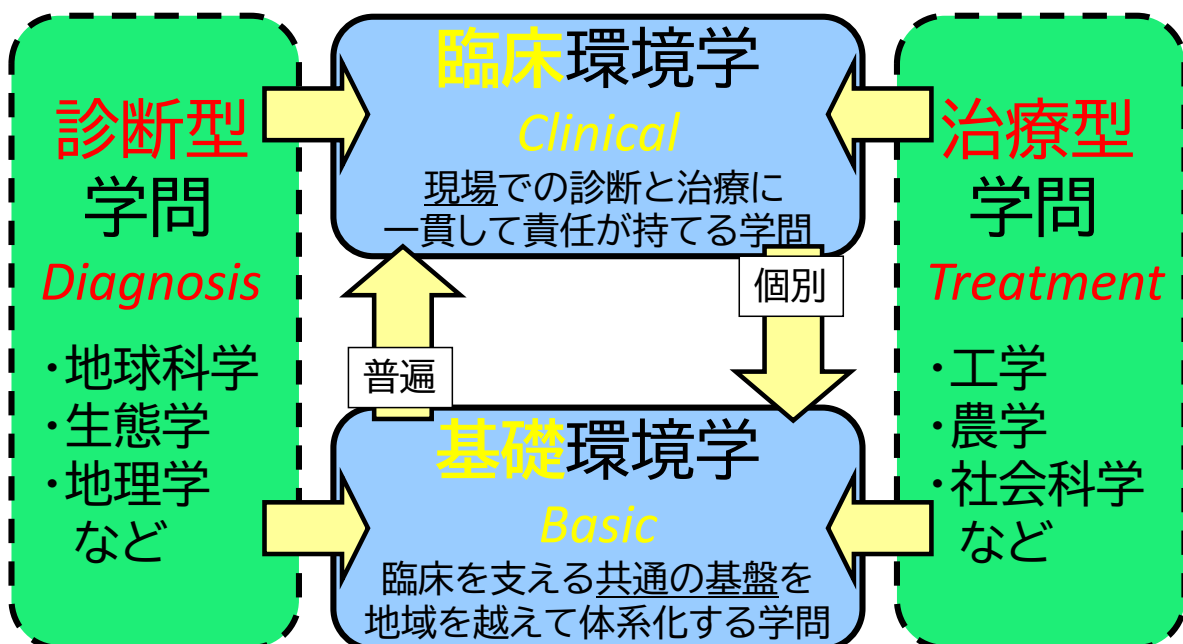
▶ しかし的外れな視点になることも。分野間相反も However, sometimes our perspective is off the mark. Interdisciplinary conflicts also exist.

• 大学に閉じこもってはいはそれを実感できない

We cannot feel it inside university.

▶ その方が論文は書けても、社会と乖離 You might be able to write papers, but you will be out of touch with society.

臨床環境学®と基礎環境学 Clinical & Basic Environmental Studies



※「臨床環境学®」は、国立大学法人東海国立大学機構の登録商標です。

「俯瞰力」と「現場力」

Skill for “Overlooking” & “Acting real fields?”

- 基礎 basic・・・『俯瞰力』:Think globally
 - 様々な立場や価値観があることを理解し、旺盛な好奇心を持てる力
The ability to understand that there are various perspectives and values, and to have a strong sense of curiosity.
 - 幅広い視野を持って状況を把握できる力 The ability to grasp a situation with a broad perspective.
- 臨床 Clinical・・・『現場力』:Act locally
 - どこに放り出されても対応できる分析力とコミュニケーション力
Analytical and communication skills to cope no matter where you are placed
 - 状況を把握し伝える力(診断) The ability to understand and communicate the situation (diagnosis)
 - 調査や意見交換を通じて適切な処置を提案し実施できる力(処方・治療) The ability to propose and implement appropriate measures through investigation and exchange of opinions (prescription/treatment)

Join us in tackling local challenges in the field!

Education and Research Center for Sustainable Co-Development presents

Clinical Environmental Studies Program

All doctoral students of Nagoya Uni. can take this program.

「臨床環境学®」は、東海国立大学機構の登録商標です
Clinical Environmental Studies is a TRADEMARK of Tok National Higher Education and Research System

- ◎博士後期課程向け。環境学研究科はもちろん、全学どこからでも参加可能。修了証を授与
For doctoral students. Open to students from all graduate school in Nagoya university. Getting certificate.
- ◎異分野の学生・教員とともに、環境問題について多角的に考えることができる
Students and professors from different fields can think about environmental issues from multiple perspectives.

臨床環境学プログラム：後期課程

Clinical Environmental Studies Program for Doctor Course

(ALL: Japanese and English)

- On-site Research Training (ORT): **臨床環境学研修** (3 credits)

国内のフィールドにおいて、異分野の教員・学生からなるチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。

- On-campus Seminar: **SDGs基礎セミナー** (2 credits)

臨床環境学とは何か、また、持続可能な開発とSDGsの基礎的内容を学ぶとともに自身の研究テーマがSDGs達成にどう貢献できるかを考える。



名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21

6

臨床環境学プログラム：後期課程

Clinical Environmental Studies Program for Doctor Course

(ALL: Japanese and English)

- 2つの授業の単位を修得すると**プログラム修了証(certificate)**が得られる

Upon completing the two courses, you will receive a program completion certificate.

- これらの授業は**博士(環境学)の単位取得要件**＜他専攻科目＞に使える

These courses can be used towards the credit requirements for obtaining a PhD in Environmental Studies (other major subjects)



名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21

7

ORTの基本方針

Basic Concept of ORT

- 自発的に問題を見つけ、調べ、結果を出す
Finding problems, investigating and getting results voluntarily
 - 課題を与えることはしない
 - その地域の「持続可能性」を脅かす問題を自ら見だし、具体的な調査計画を立案・遂行し、地域に還元できる内容の成果としてまとめる
 - ※ 自分の専門に近いかどうかわからない
でも、現場では自分の専門が通用するかどうか保証はないのが当然
- 多様な学問的背景を持つ仲間と組んで活動する
Collaborating colleagues with diverse background
 - 研究室の中で活動するだけでは得られない、幅広い視野(俯瞰力)と問題解決のための方法(現場力)を身につける
 - ※ 通常は出会わない人たちと一緒に仕事する
現場にもいろいろな方がいる。そもそも言葉が通じない

ORTの流れ：「俯瞰力」「現場力」をつける！

Flow of ORT to improve the skill for
"Overlooking" & "Acting real fields."



多様な背景を持つ教員・スタッフ

Professors & staffs have various background

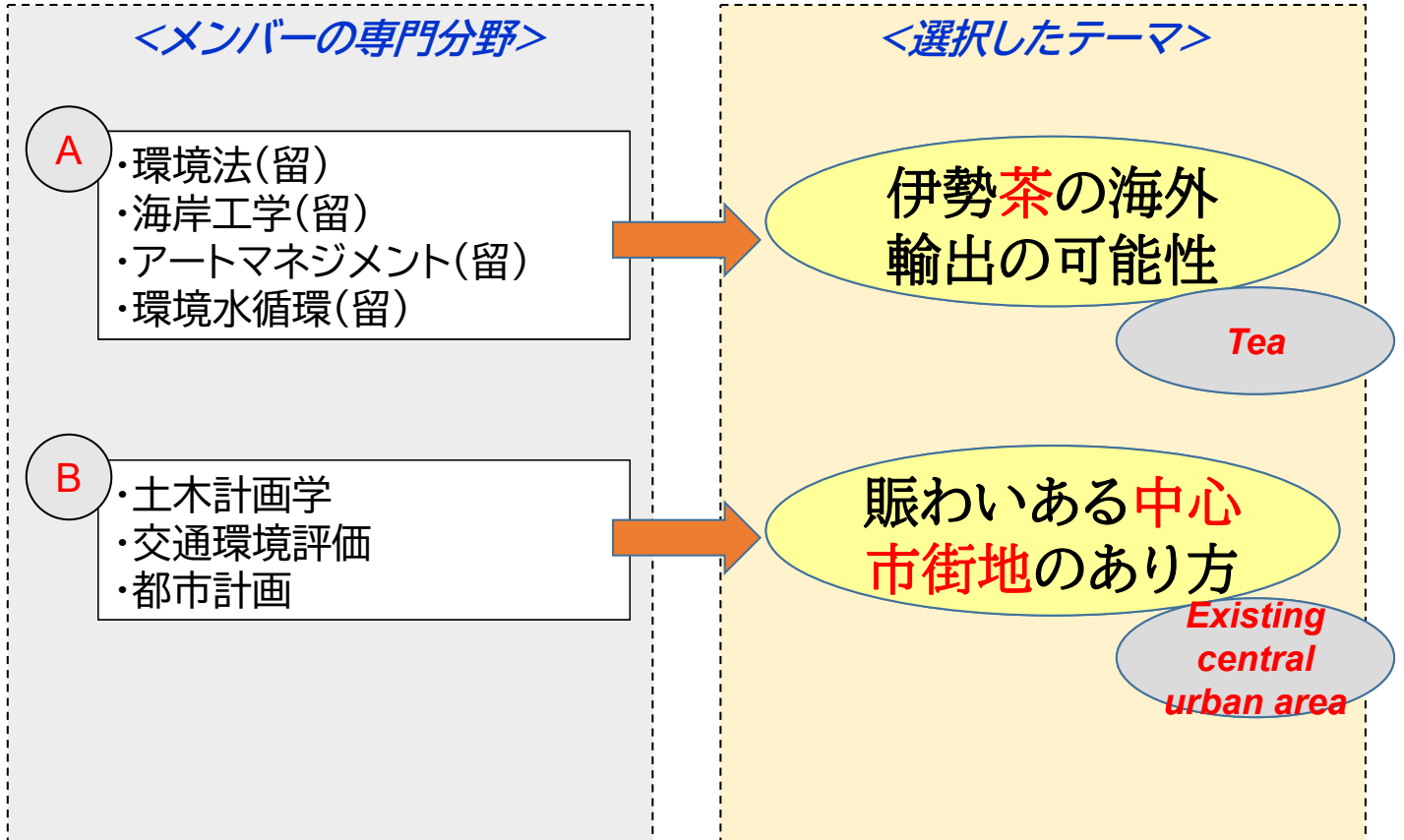
- 高野雅夫 TAKANO (地球環境科学専攻) 地球環境システム学
 - 加藤博和 KATO (共発展センター) 環境・交通・地域政策
 - 平野恭弘 HIRANO (地球環境科学専攻) 林学・森林工学
 - 河村則行 KAWAMURA (社会環境学専攻) 社会学
 - 徐 非凡 XU (共発展センター) 都市計画、気候変動適応策
 - 林 亮太 HAYASHI (地球環境科学専攻) 森林科学
 - 山下博美 YAMASHITA (客員) 自然共生システム
 - 張 馨 ZHANG (共発展センター) 交通工学
 - 宮坂隆文 MIYASAKA (共発展センター) 社会-生態システム
- その他、数名の協力教員が適宜参加予定

「流域圏」で環境問題をとらえる

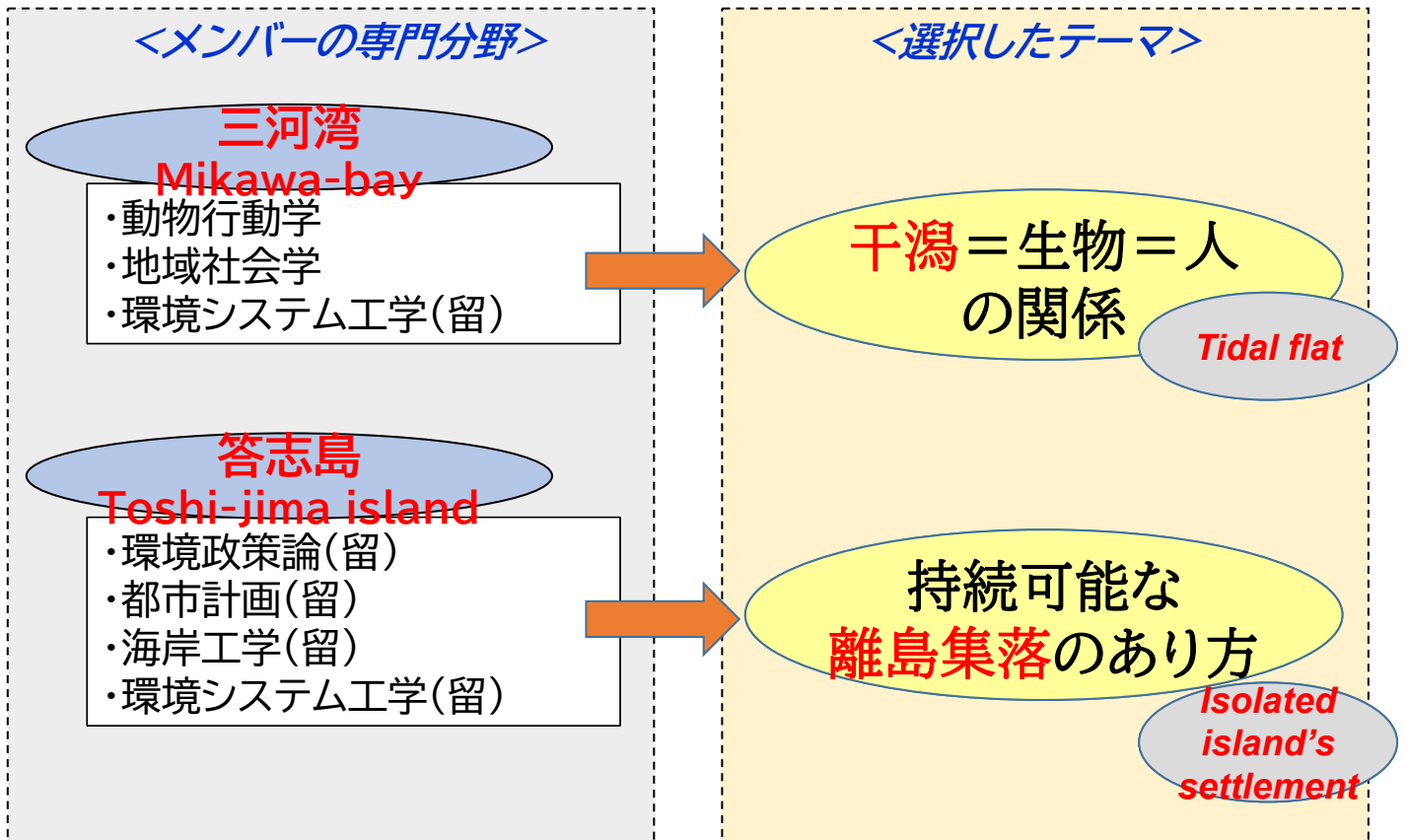
Grasping the environmental problems by bioregion

- 日頃我々は無意識のうちに流域圏(川、山)を横切っている
We usually cross bioregion (river & mountain).
- しかし、自然環境は流域圏の範囲である程度閉じている(交通が発達していない時は人間活動もそうだった)
Natural environment is closed in bioregion.
- 改めて、流域圏という単位を意識して環境問題をとらえると、いろいろなことが分かるのではないか?
Grasping environmental issues by bioregion scale is effective.
- 当然、人間が勝手に決めた専門領域を、流域圏は横切っている(分野横断型協働の必要性)
Collaboration between disciplines identified by human is necessary.

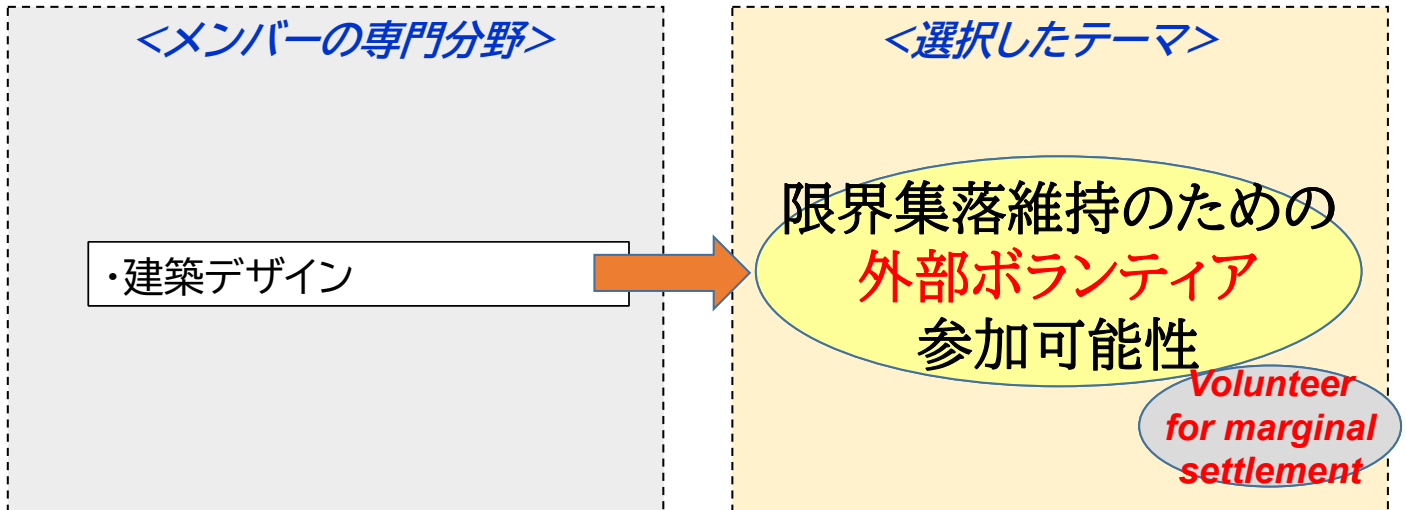
2012年度ORT(櫛田川) Group & theme



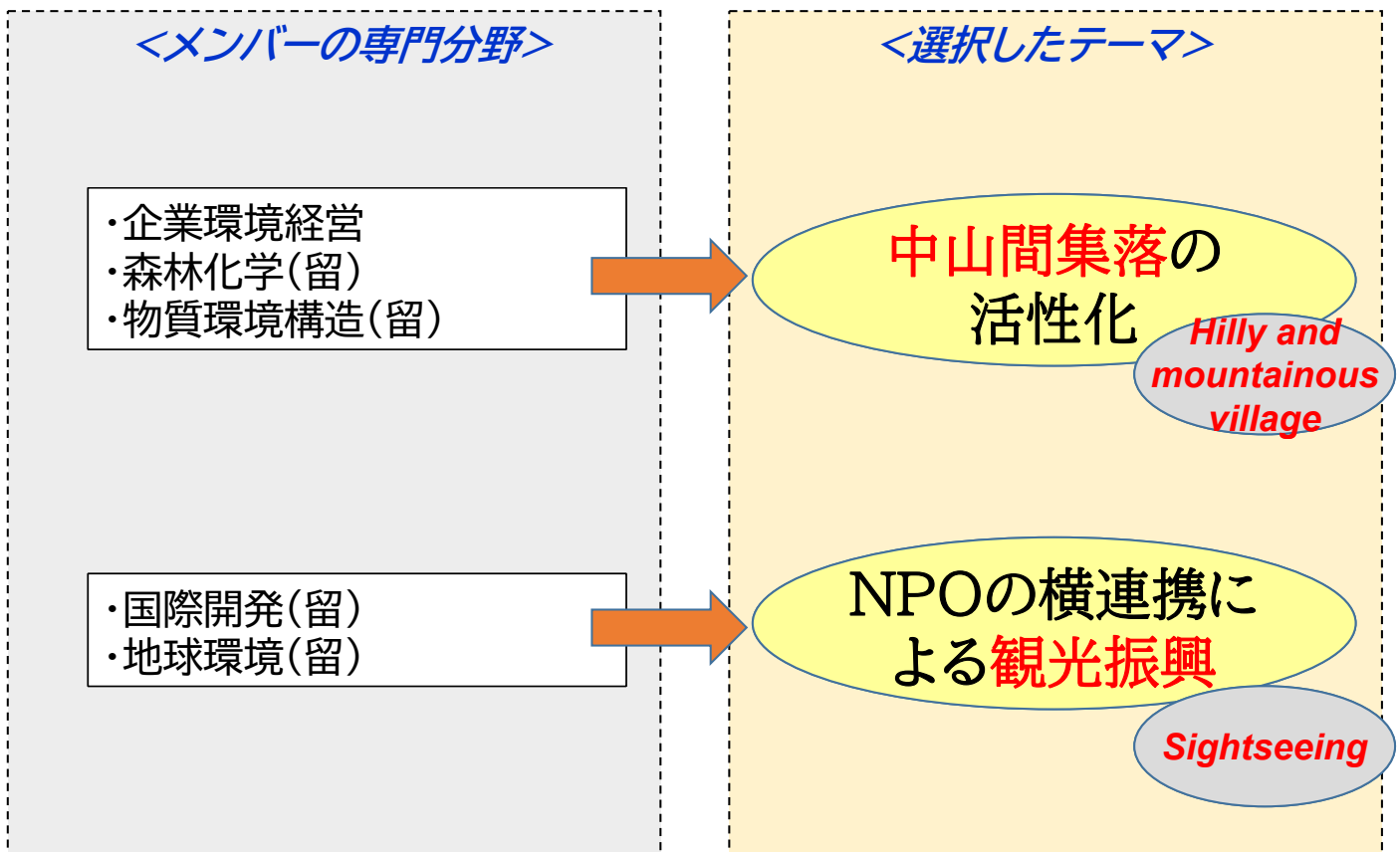
2013年度ORT(伊勢湾沿岸域) Group & theme



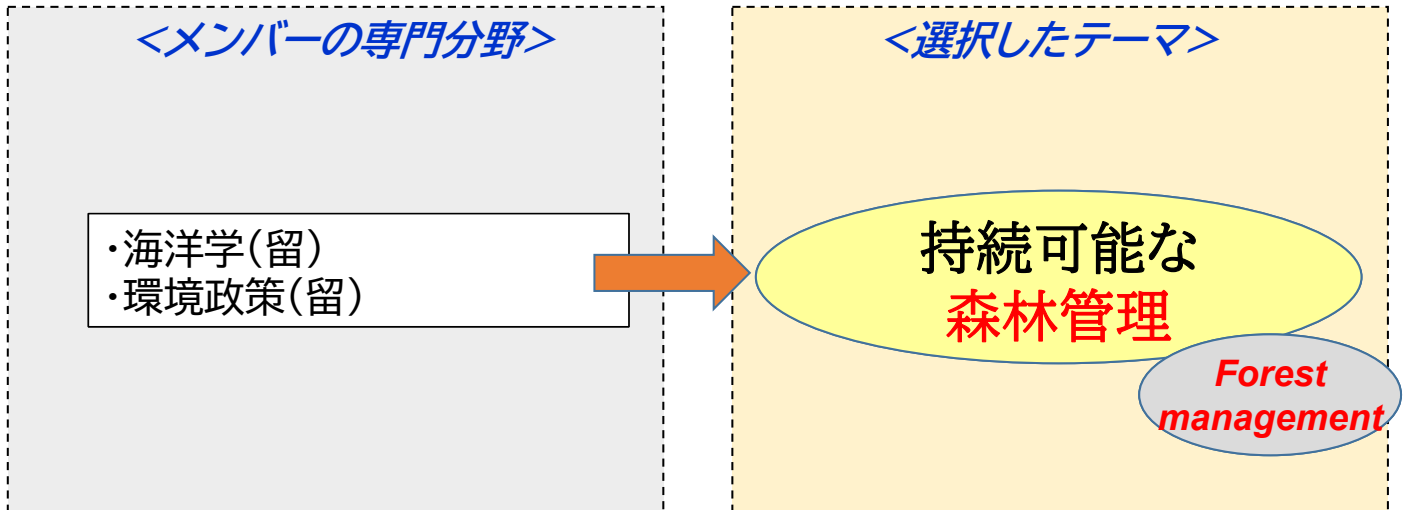
2014年度ORT(櫛田川) Group & theme



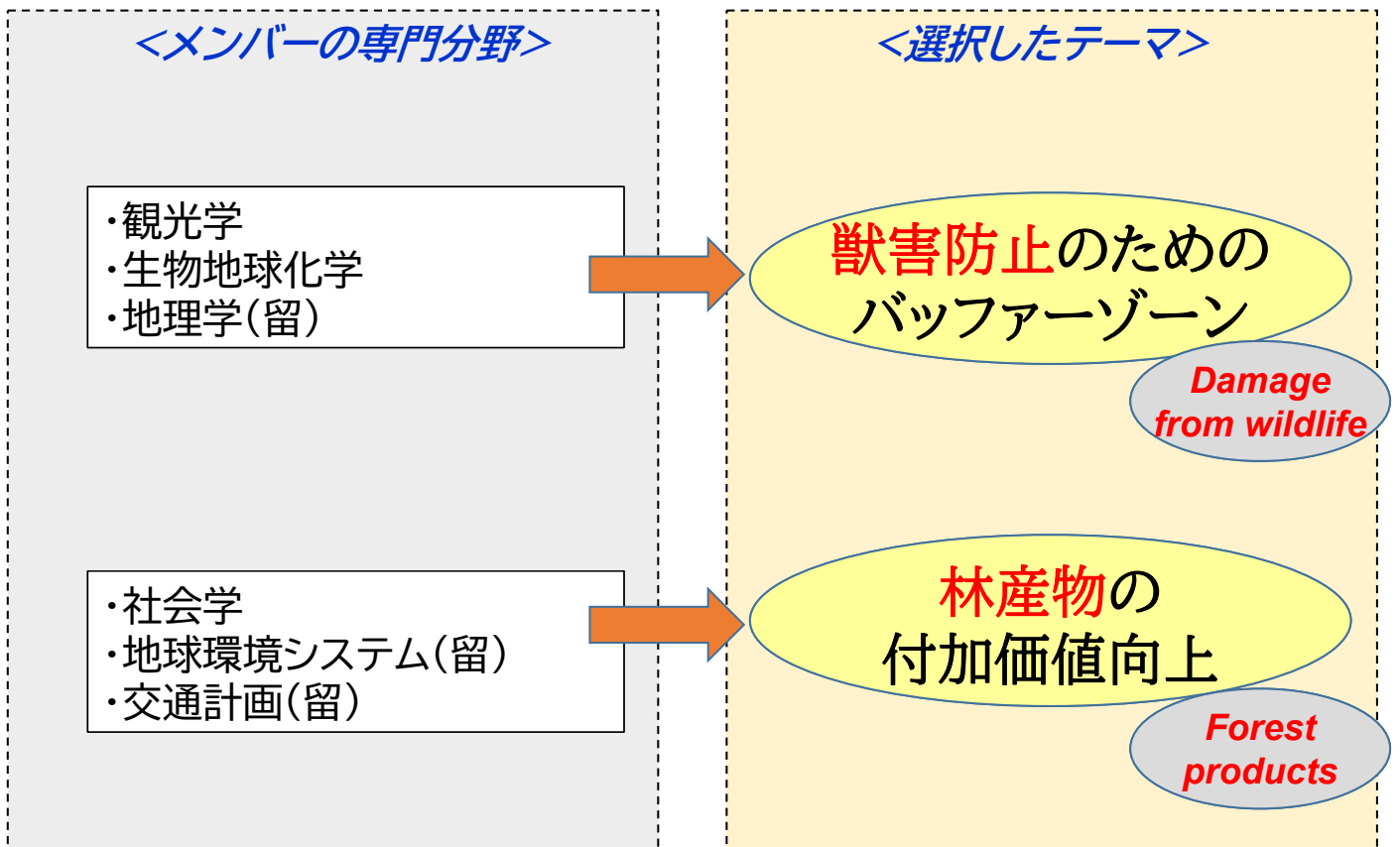
2015年度ORT(恵那) Group & theme



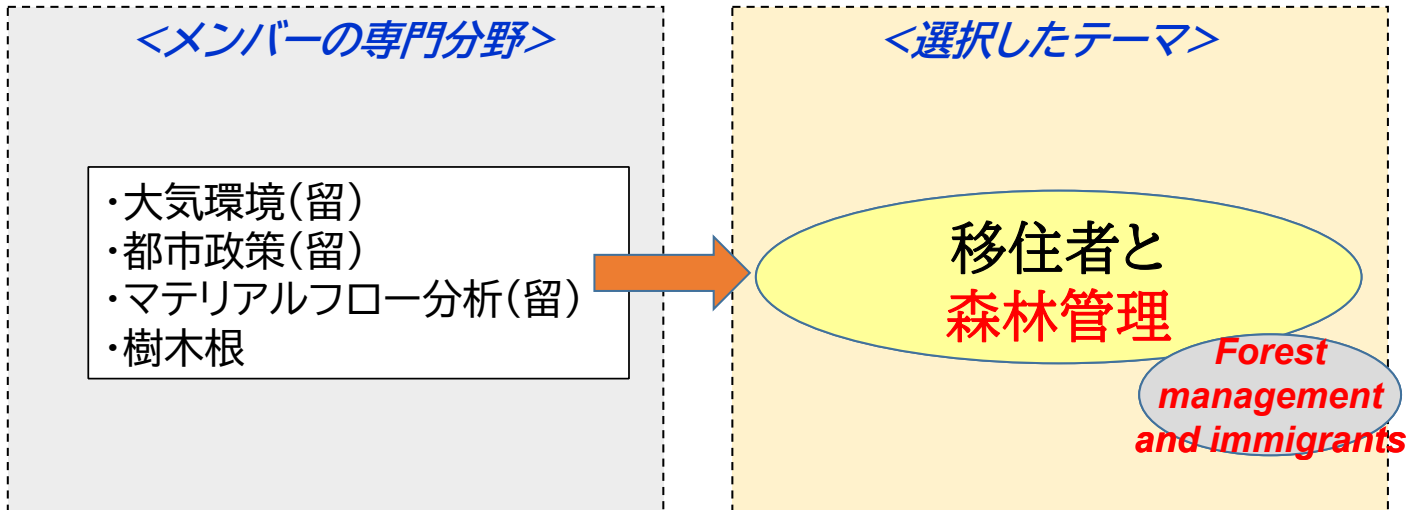
2016年度ORT(恵那) Group & theme



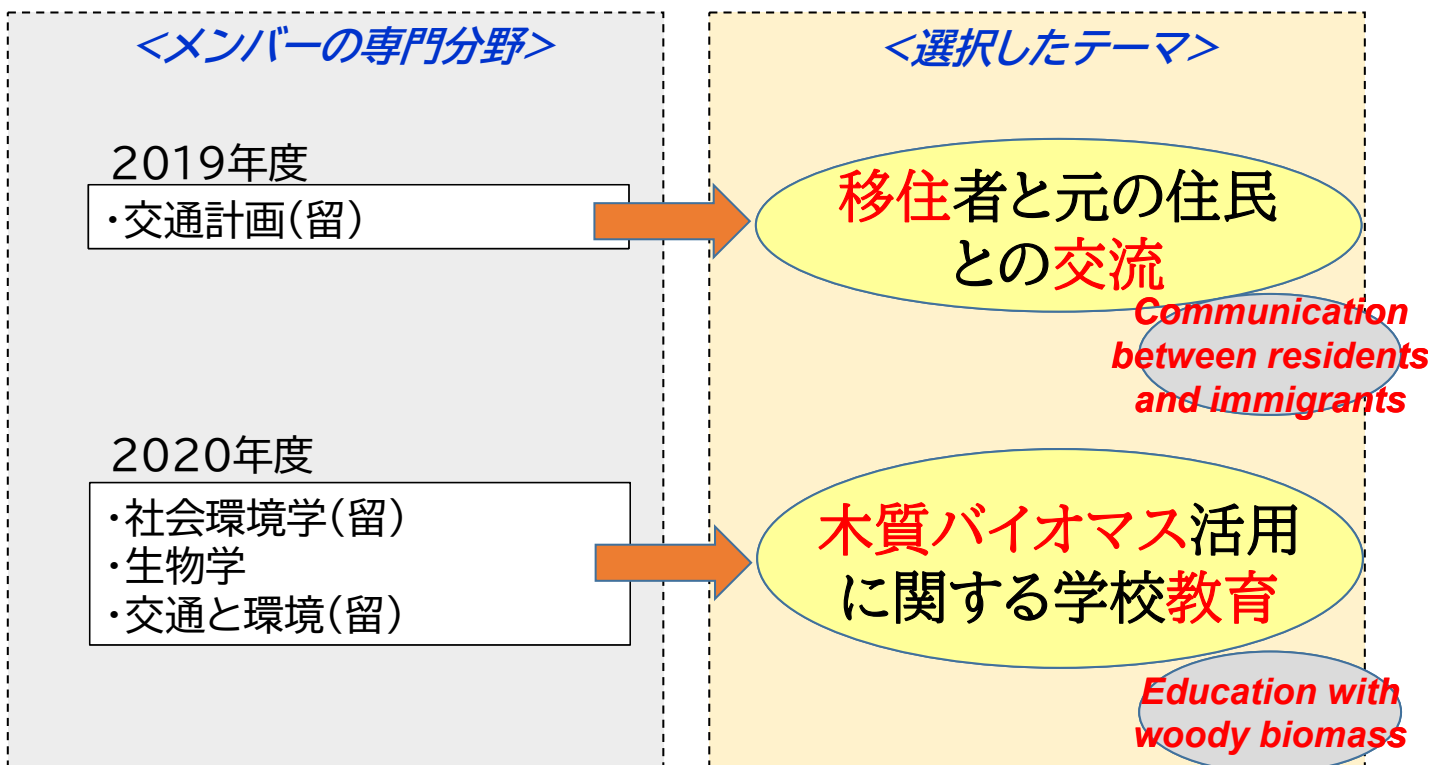
2017年度ORT(白川・東白川) Group & theme



2018年度ORT(白川・東白川) Group & theme

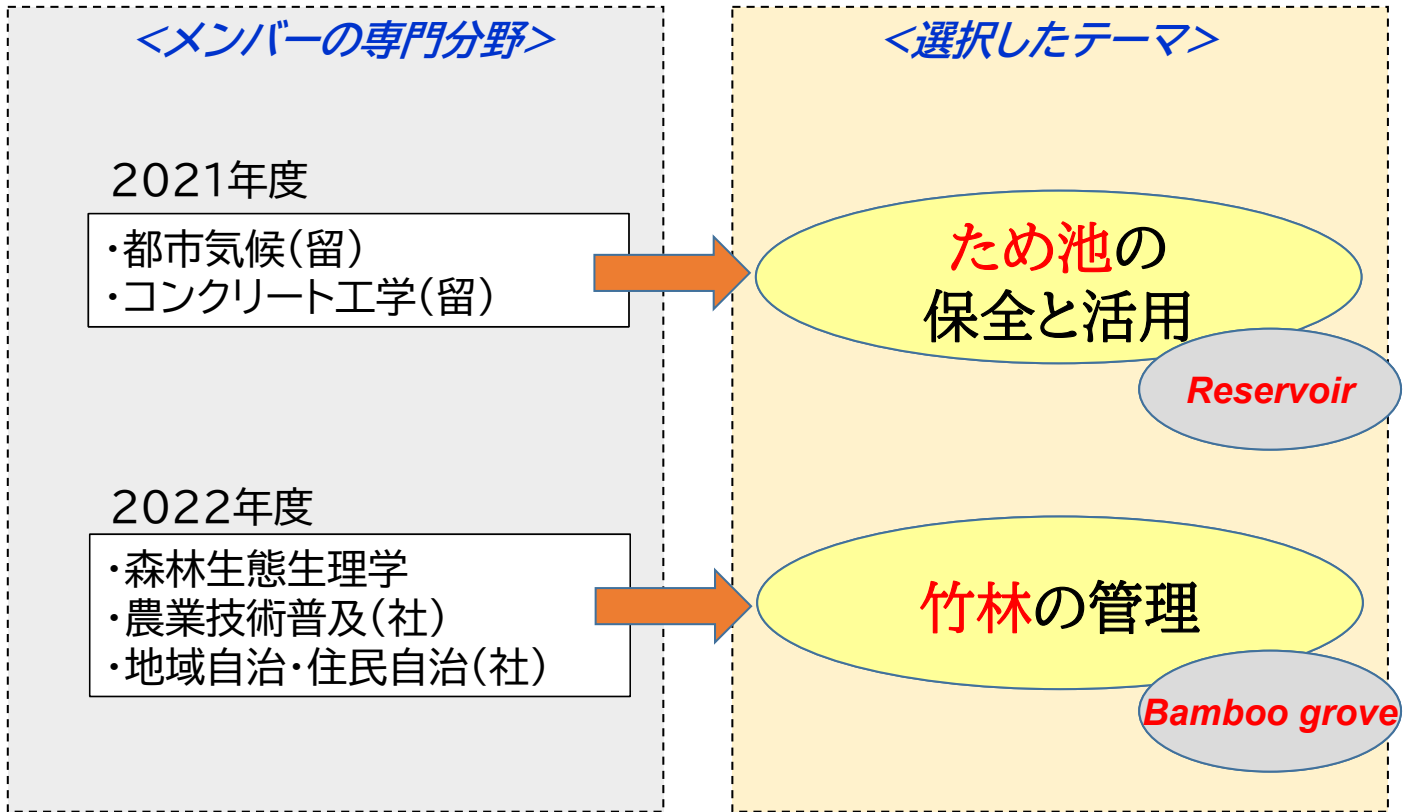


2019・20年度ORT(木曽町) Group & theme

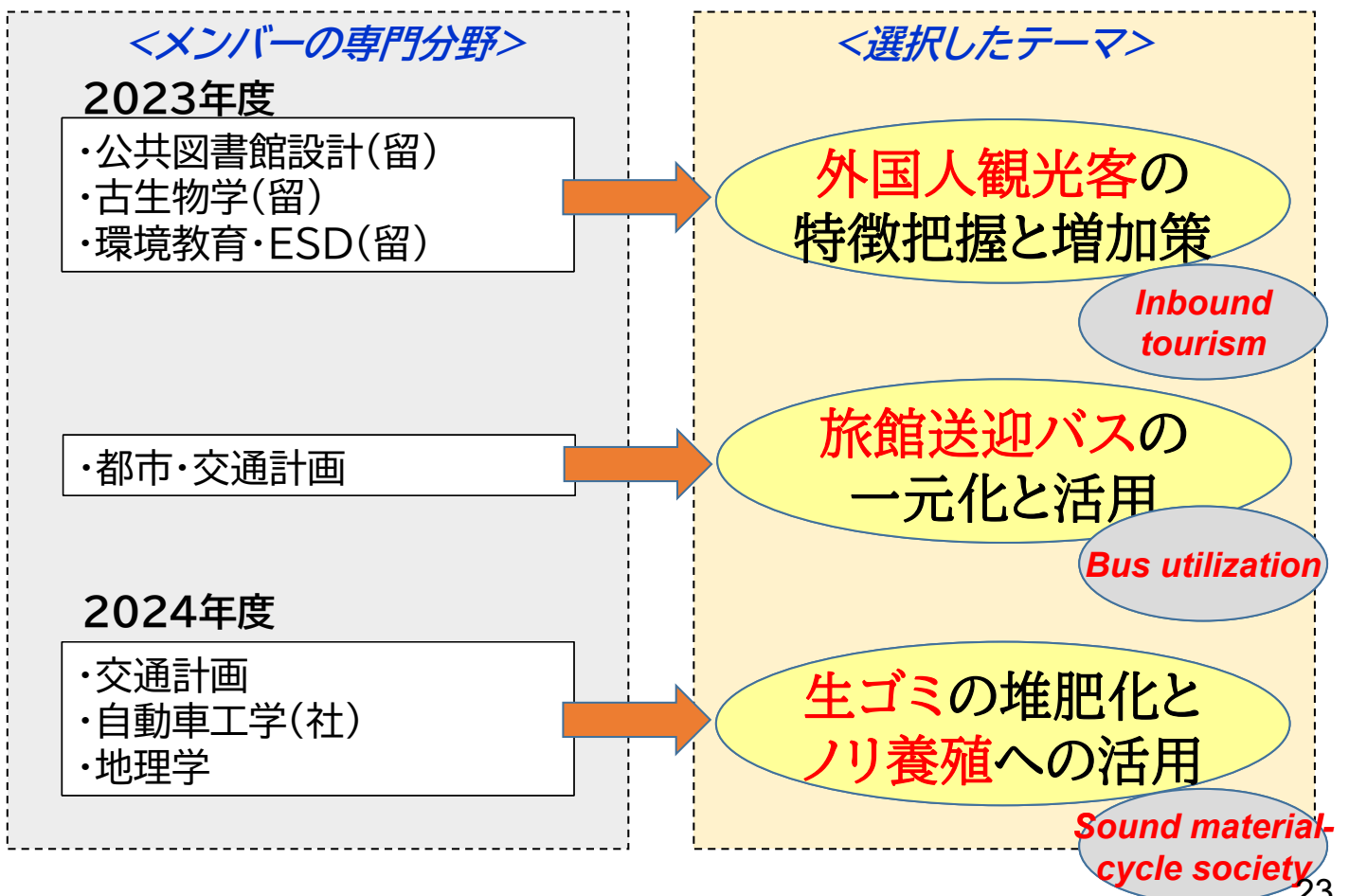


※2020年度はオンラインで実施(遠隔診療)

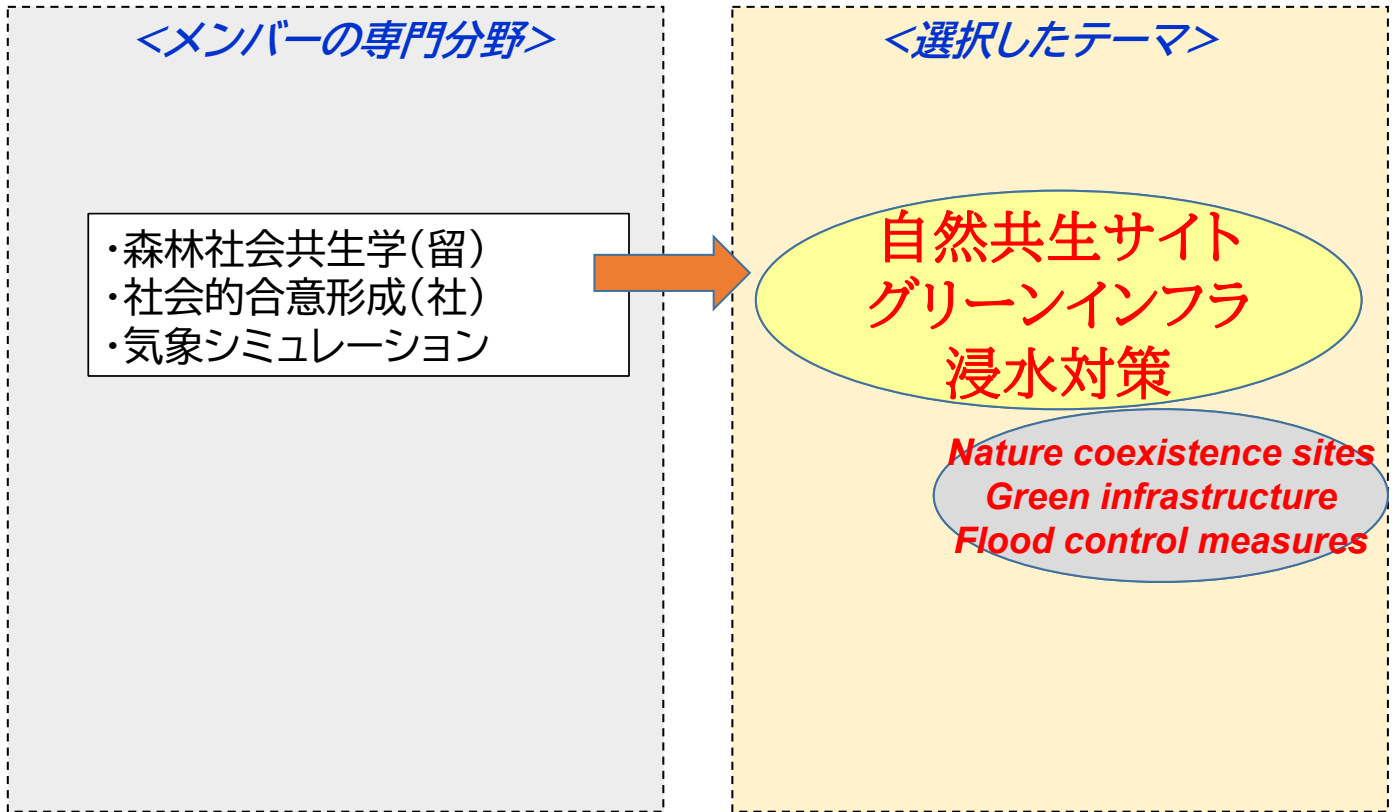
2021・22年度ORT(東浦町) Group & theme



2023・24年度ORT(鳥羽市) Group & theme



2025年度ORT(一宮市) Group & theme



ORTの日程 (予定) Schedule

月	行事	内容
4月下旬	立ち上げ会合	概要説明、グループ分け
5月	準備会合	各個人の興味に応じた対象地域に関する発表
6月	定例打合せ	現地見学会の準備
6~7月 (3日間)	現地見学会 (スタディツアー)	現地を訪問し調査・ヒアリング
6~12月 (毎月 1回程度)	個別調査・分析	各グループで個別に実施
	定例打合せ	各グループの進捗状況確認
12~3月 (1日)	現地報告会	地域の皆様に研究成果を見ていただくとともに議論し、今後の調査研究へつなげる
2~3月	最終報告書作成	報告書として形に残し、地域にも手渡す

ORT Schedule

Month	Event	Contents
Late April	Start-up meeting	Overview of this class, Group division
May	Preparation meeting	Presentations on the site tailored to individual interests
June	Regular meeting	Preparation of study tour
June or July (3days)	Study tour on the site by all members	Visiting the site and conducting surveys and interviews
June to December (every one month)	Individual surveys and analyses	Conducted individually for each group
	Regular meeting	Checking the progress of each group
December to March	On-site report session	The research results will be shown to local people, discussed, and used to guide future research
February to March	Creation of final report	The results will be compiled in a report and handed over to the local community

2021年度最終報告会 (2022年3月28日開催) Final report conference in Higashiura town



日時：3月28日(月) 10:00~12:00 (開場9:50)
会場：東浦町役場 本庁舎3階合同委員会室 (+Zoom)
入場無料・事前申込要

プログラム

- 10:00 開会・開催挨拶 神谷 明彦 (東浦町長)
山岡 耕春 (名古屋大学 環境学研究科 科長)
- 10:10 「臨床環境学」研修 (ORT: On-site Research Training) について
宮坂 隆文 (名古屋大学 環境学研究科 助教)
- 10:25 「人口構成と不動産流動性の歴史的推移からみた郊外住宅団地の持続可能性の評価～愛知県東浦町をモデルとして～」 (東浦町大学連携創成事業研究発表)
海老原 拓 (名古屋大学 環境学研究科)、高野 雅夫 (名古屋大学 環境学研究科 教授)
- 10:40 「東浦町のため池と土地利用・機能・保全・安全性との関係性」
博士課程学生：カイン・スス・タン、デア・タニア・オクタリナ
- 11:20 意見交換会 進行：加藤 博和 (名古屋大学 環境学研究科 教授)
- 11:50 閉会・閉会挨拶 西澤 泰彦 (名古屋大学 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター)

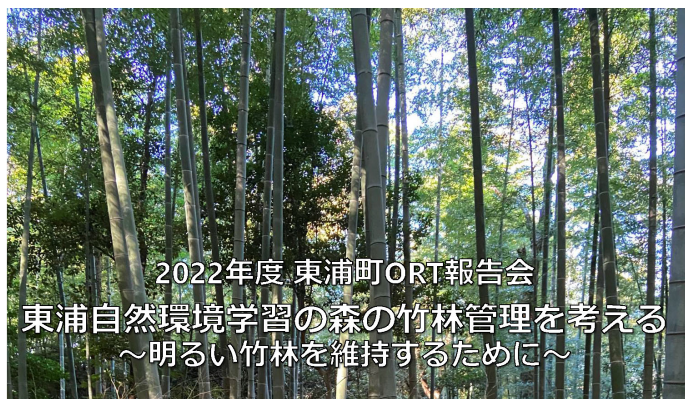


主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：東浦町
問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局 (株元) TEL: 052-747-6547



2022年度最終報告会 (2023年3月22日開催)

Final report conference in Higashiura town



2022年度 東浦町ORT報告会
東浦自然環境学習の森の竹林管理を考える
～明るい竹林を維持するために～

日時：3月22日(水) 14:00～15:40 (開場13:50)

会場：東浦町 勤労福祉会館 2階会議室1

入場無料・事前申込制



申込みフォームはこちら



プログラム	
14:00	開会・開催挨拶 神谷 明彦 (東浦町長) 山岡 耕春 (名古屋大学 環境学研究科長)
14:10	「臨床環境学」研修 (ORT: On-site Research Training) について 宮坂 隆文 (名古屋大学 環境学研究科 講師)
14:25	「明るい竹林形成のための持続可能な維持管理方法 ～東浦自然環境学習の森を例に～」 博士後期課程学生: 勝浦 柊、紀平 真理子、佐藤 則子
14:55	意見交換会 進行: 加藤 博和 (名古屋大学 環境学研究科 教授)
15:30	閉会・閉会挨拶 西澤 泰彦 (名古屋大学 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長)



主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：東浦町

問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局 (張) TEL: 052-747-6547

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21

28

2023年度最終報告会 (2024年2月19日開催)

Final report conference in Toba city



2023年度名古屋大学院生
鳥羽市ORT報告会
～住む人も訪れる人も楽しいまち
「鳥羽」を目指し、何ができるか～

日時：2月19日(月) 14:00～

会場：鳥羽市役所本庁舎3階 第2.3委員会室

申込み・
参加費不要

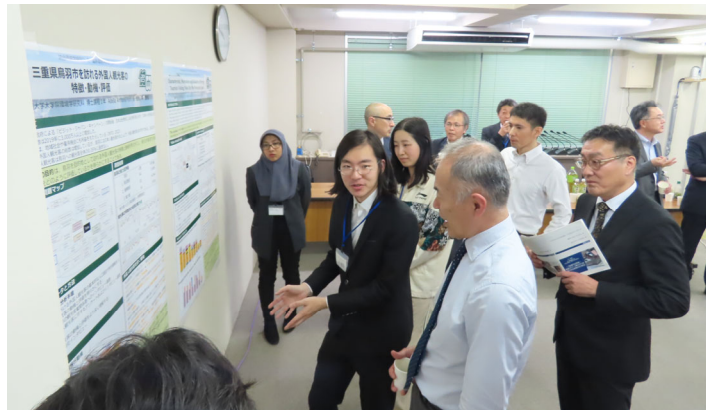
プログラム	
14:00	開会・開催挨拶 中村 欣一郎 (鳥羽市長) 横山 智 (名古屋大学大学院 環境学研究科長)
14:10	「臨床環境学」研修 (ORT: On-site Research Training) について 宮坂 隆文 (名古屋大学大学院環境学研究科 講師)
14:20	地域の足を確保するための新たな交通サービスの提案 ～相差町を事例に～ 博士後期課程学生: 佐藤 千江、市村 駿汰
14:40	三重県鳥羽市を訪れる外国人観光客の特徴・動機・評価 博士後期課程学生: Adella Anfidina Putri, Hu Jiayu, Li Qingyi
15:20	ポスターセッション
16:00	意見交換会 進行: 加藤 博和 (名古屋大学大学院環境学研究科 教授) テーマ: 住む人も訪れる人も楽しいまち「鳥羽」を目指し、何ができるか
16:55	閉会・閉会挨拶 高野 雅夫 (名古屋大学 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長)

司会進行: 山下 博美 (名古屋大学大学院環境学研究科 客員教授)



主催：名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力：鳥羽市
どなたでもどなたでも、お気軽にご参加ください。
問い合わせ：持続的共発展教育研究センター事務局 (張) TEL: 052-747-6547

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21



29

2024年度最終報告会 (2025年2月17日開催)

Final report conference in Toba city



2024年度名古屋大学院生
鳥羽市ORT報告会

～生ゴミからノリへ！？
鳥羽ならではの資源循環を考えよう～

日時：2025年2月17日(月) 14:00～ どなたでも、お気軽にご参加ください。
会場：鳥羽市役所本庁舎3階 第2.3委員会室 申込み・参加費不要

プログラム

14:00	開会・開催挨拶	中村 欣一郎 (鳥羽市長) 横山 智 (名古屋大学大学院 環境学研究科長)
14:10	「臨床環境学」研修 (ORT: On-site Research Training) について	宮坂 隆文 (名古屋大学大学院 環境学研究科 講師)
14:20	鳥羽市における生ゴミ堆肥化事業の現状と課題	博士後期課程学生: 岩月 健吾
14:35	生ゴミ堆肥と鶏糞堆肥に含まれる栄養塩の比較調査	博士後期課程学生: 三輪 晃司
14:50	生ゴミ堆肥のノリ養殖への活用における資源循環フローの検討および受容性の調査	博士後期課程学生: 落合 真由
15:20	ポスターセッション	
16:00	意見交換会 進行: 加藤 博和 (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授)	テーマ: ～生ゴミからノリへ！？ 鳥羽ならではの資源循環を考えよう～
16:55	閉会・閉会挨拶	高野 雅夫 (名古屋大学大学院 環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター長)

司会進行: 山下 博美 (名古屋大学大学院 環境学研究科 客員教授)



主催: 名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力: 鳥羽市
問い合わせ: 持続的共発展教育研究センター事務局 (張) TEL: 052-747-6547

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21



30

2025年度最終報告会 (2026年3月23日開催)

Final report conference in Ichinomiya city



2025年度名古屋大学ORT報告会

水や緑とともにある一宮の暮らし
～浸水リスク低減と
自然共生のこれからのかたち～

日時：2026年3月23日(月) 14:30～ どなたでもお気軽にご参加ください。
会場：一宮市役所本庁舎1102会議室 申込み・参加費不要

プログラム

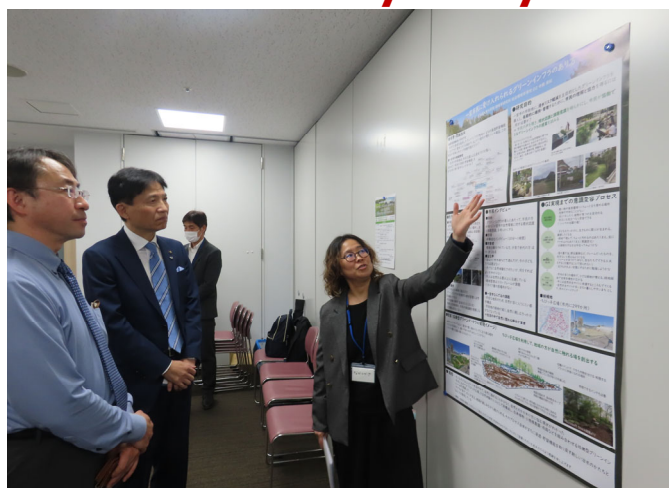
14:30	開会挨拶	高野 雅夫 (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 持続的共発展教育研究センター長)
14:40	「臨床環境学」研修 (ORT: On-site Research Training) について	林 亮太 (名古屋大学大学院 環境学研究科 助教)
14:50	一宮市民に受け入れられるグリーンインフラのあり方	博士後期課程学生: 中務 亜紀
15:10	一宮市における自然共生サイト認定のポテンシャル	博士後期課程学生: Habib Muhammad
15:25	内外水氾濫モデルを用いた一宮市における治水施策 (田んぼダム等) の導入効果推定	博士後期課程学生: 徳植 啓康
15:45	ポスターセッション	
16:20	意見交換会	進行: 加藤 博和 (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授) 講評: 中野 正康 氏 (一宮市長)
17:15	閉会挨拶	谷川 寛樹 (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 環境学研究科長)

司会進行: 山下 博美 (名古屋大学大学院 環境学研究科 客員教授)



主催: 名古屋大学 大学院環境学研究科 附属持続的共発展教育研究センター
協力: 一宮市
問い合わせ: 持続的共発展教育研究センター事務局 (宮坂) TEL: 052-747-6547

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21



31

Let's begin the journey of clinical environmental studies!

2026年度のフィールド: 蒲郡(がまごおり)市(愛知県)
 ORT Field in AY2026: GAMAGORI city (Aichi pref.)

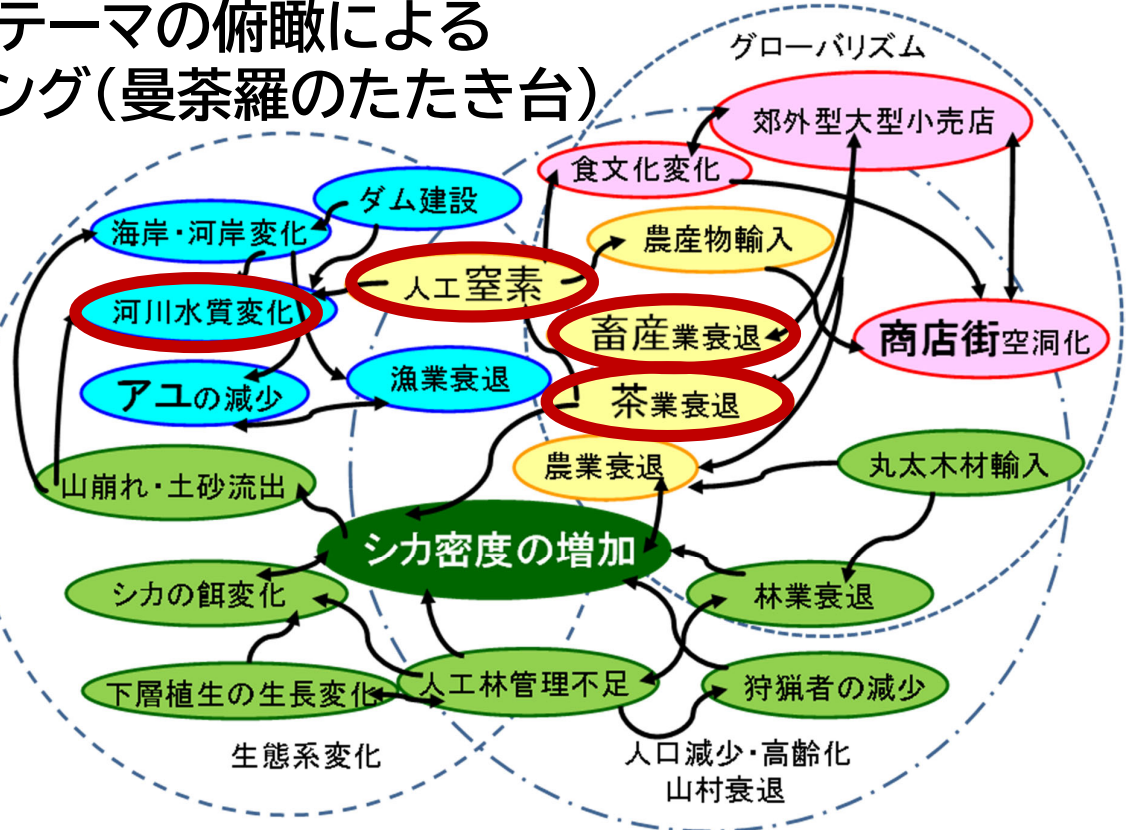


名古屋大学大学院環境学研究所附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21

ORTによる基礎環境学への接近 (例)
 Approach to basic environmental studies by ORT

各個別テーマの俯瞰による
 問題マッピング(曼荼羅のたたき台)

Mapping of various problems by overlooking individual themes (to describe MANDALA)



名古屋大学大学院環境学研究所附属持続的共発展教育研究センター 2026/04/21

臨床環境学プログラムへの参加で何が得られるか？ What do you get by joining our program?

Exiting! Interesting! and Cool!

- コミュニケーションが得意になる(対人、対自然) Get strong communication skills (interpersonal and environmental).
- 異分野・一般社会での知り合いが増える Increase your acquaintances in different fields and in general society.
- 視野が広がる Broaden your perspective.
- 日本のことがわかる Understand Japan.

すなわち「俯瞰力」と「現場力」 “Overlooking” & “Acting real fields?”

- 「ただの博士・修士」は上記のスキルは不要
「何か新しいことをやらかす博士・修士」になる
“Just a PhD/Master’s holder” doesn’t need the above skills.
Become a “PhD/Master’s holder who does something new.”
- 「専門の研究者」以外のキャリアパスを拓く
究極の狙いどころは「起業家」「政治家」の輩出
Open up career paths other than “specialized researcher.” The ultimate goal is to produce “entrepreneurs” and “politicians.”

つまり、世の中をいい方向に変える人！ いま、世界が求めています！
In other words, people who change the world for the better! The world is looking for such people now!

**求む！ 地球と地域を救おうとする
高い志と強い意志をもった学生**

We expect the participation of students with high motivation and strong will. Let's tackle!



持続的共発展

検索

共に創る 持続可能な社会

途上国と先進国 自然と人間 農山漁村と都市 大学と社会



<http://ercscd.env.nagoya-u.ac.jp/>

質問・相談は、こちらへどうぞ。

If you have any questions or consultation, please contact us.

持続的共発展教育研究センター 事務局（環境総合館4階407室）
Education and Research Center for Sustainable Co-Development

TEL: 052-747-6547

cesfirm@ercscd.env.nagoya-u.ac.jp